

平成28年12月22日

山口県教育委員会会議案

山口県教育委員会

## 議案

番号	件 名	主 管 課
1	山口県教育委員会表彰規則による表彰について（報告承認）	教 育 政 策 課

議案第1号

山口県教育委員会表彰規則による表彰について（報告承認）

山口県教育委員会表彰規則（昭和61年山口県教育委員会規則第6号）第2条の規定に基づき、平成28年度教育功労者を次のとおり決定したので報告し、承認を求めます。

平成28年（2016年）12月22日

山口県教育委員会  
教育長 浅原 司

永年精勤の部（表彰規則第2条第6号）

所属名	職名	氏名	勤務年数	備考
下関市立豊東小学校	教諭	白石 浩明	31年	平成28年12月15日 死亡退職



## 報告事項

番号	件 名	主 管 課
1	平成28年度山口県学力定着状況確認問題の結果について	義務教育課
2	平成29年3月新規高等学校等卒業予定者の就職内定状況等について	高校教育課
3	平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について	学校安全・体育課

平成 2 8 年度学力定着状況確認問題結果について【概要版】

山口県教育庁義務教育課

平成 2 8 年 1 2 月

1 実施概要

(1) 目的

児童生徒の客観的な学力状況の経年的な把握と分析を通して、課題解決に向けた指導の工夫改善等の取組の充実を図る全県的な検証改善サイクルを確立し、県内全ての児童生徒の学力の確実な定着と向上を図る。

(2) 実施期日

平成 2 8 年 1 0 月 2 6 日 (水) ※学校の状況に応じて、10/24~10/28 の期間に実施

(3) 実施対象及び実施内容

①小学校

学 年	実施人数	内 容 (時 間)	
第 3 学年	1 1, 0 3 8 人	国語、算数(各 40 分)	及び質問紙
第 4 学年	1 0, 9 9 2 人	国語、算数(各 40 分)	及び質問紙
第 5 学年	1 0, 8 1 9 人	国語、算数、社会、理科(各 40 分)	及び質問紙
第 6 学年	1 1, 2 8 7 人	国語、算数(各 40 分)	及び質問紙

②中学校

学 年	実施人数	内 容 (時間)	
第 1 学年	1 0, 8 5 1 人	国語、数学(各 45 分)	及び質問紙
第 2 学年	1 0, 9 8 4 人	国語、数学、社会、理科、英語(各 45 分)	及び質問紙

2 教科の問題に関する結果

(1) 平均正答率

①小学校

	国 語	算 数	社 会	理 科
第 3 学年	7 1. 0 %	6 6. 9 %		
第 4 学年	6 5. 1 %	6 6. 5 %		
第 5 学年	6 4. 1 %	5 3. 2 %	5 5. 5 %	5 6. 9 %
第 6 学年	6 7. 0 %	6 4. 4 %		

②中学校

	国 語	数 学	社 会	理 科	英 語
第 1 学年	6 5. 4 %	5 0. 1 %			
第 2 学年	6 0. 3 %	5 2. 3 %	4 2. 7 %	4 3. 4 %	3 9. 5 %

## (2) 教科の問題結果から見られる特徴

- 基礎的・基本的な内容を問う問題については、おおむね成果や改善傾向が見られる。
- 基礎的・基本的な内容を活用して具体的な場面について考察する問題や記述式の問題には、依然として課題が見られる。

		主な成果	主な課題
小学校	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ローマ字を正しく書くこと【問題例①】</li> <li>○国語辞典の正しい使い方を理解すること</li> <li>○文字の配列や大きさに注意して毛筆で書くこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文中の主語と述語を捉えること</li> <li>●文章や図表から必要な情報を読み取ること</li> <li>●目的や意図に応じて自分の考えを書くこと</li> </ul>
	算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○四則計算をすること</li> <li>○数量関係や図形の基本的な内容について理解すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●図形の構成や単位の換算、除法のきまりについて理解すること【問題例③】</li> <li>●割合の内容について理解すること</li> <li>●問題場面を読み取って式に表すこと</li> <li>●問題場面から情報を整理し、理由や方法等を説明すること</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○商業施設の特色等、身近な学習事例について理解すること</li> <li>○日本の西側にある大陸の名前について理解すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●複数の資料を関連付けて必要な情報を読み取ること</li> <li>●条件に合う都道府県を指示通りに示すこと</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○電気を通すものと通さないものについて理解すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●植物がよく育つための条件について理解すること</li> <li>●種子の部分の名称と、養分の有無を確かめる方法について記述すること</li> <li>●正しい実験を行うために、必要な条件制御について記述すること</li> </ul>
中学校	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりすること</li> <li>○語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●読み取った情報を条件に合うように的確に表現すること【問題例④】</li> <li>●話し合いの内容を受け、選んだ理由を適切に説明する等、条件等に即応して書くこと</li> </ul>
	数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○度数分布表から正しく情報を読み取ること</li> <li>○正の数・負の数の意味を、実生活の場面に結びつけて理解すること</li> <li>○連立方程式の立式の際に、着目する必要がある数量を見いだすこと【問題例②】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●数量関係を文字式に表すこと</li> <li>●基本的な図形の作図や計算などをすること</li> <li>●知識や技能を日常生活に当てはめて問題を解決すること</li> <li>●日常的な事象を数学的に解釈して説明すること</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界各地の人々のくらしの様子に関する情報を正しく読み取ること</li> <li>○それぞれの時代における外国との交流に関することについて理解すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資料から必要な情報を読み取ったり、読み取った情報をもとに地域の特色等について説明したりすること</li> <li>●示された条件に従って、歴史的な事象の特徴について説明すること</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験のグラフから比例関係にあることを見出すこと</li> <li>○地震による災害について理解すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●計算を伴う課題を解決すること</li> <li>●実験データに基づいて類推すること</li> <li>●浮力による見かけの重さを読み取ること</li> <li>●溶解度の違いによって起こる現象をとらえること</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○短い英文を聞き、内容について把握すること</li> <li>○英文の前後から判断して、文中で使う適切な単語を選ぶこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まとまった英文の内容を正確に読み取ること</li> <li>●前後の英文から意味のつながりを考えて、適切に英語でやりとりすること</li> </ul>





### 3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果

#### 【質問紙調査結果から見られる特徴】

○ 学校の授業以外に1時間以上勉強している児童生徒の割合は、ほとんどの学年で前年度に比べて増加しており、家庭学習等の習慣が定着してきていることがうかがえる。今後、自分で計画を立てて、一層主体的に家庭学習に取り組むことができるよう、児童生徒への働きかけを工夫するとともに、家庭との連携の一層の充実を図りたい。【質問①②③】

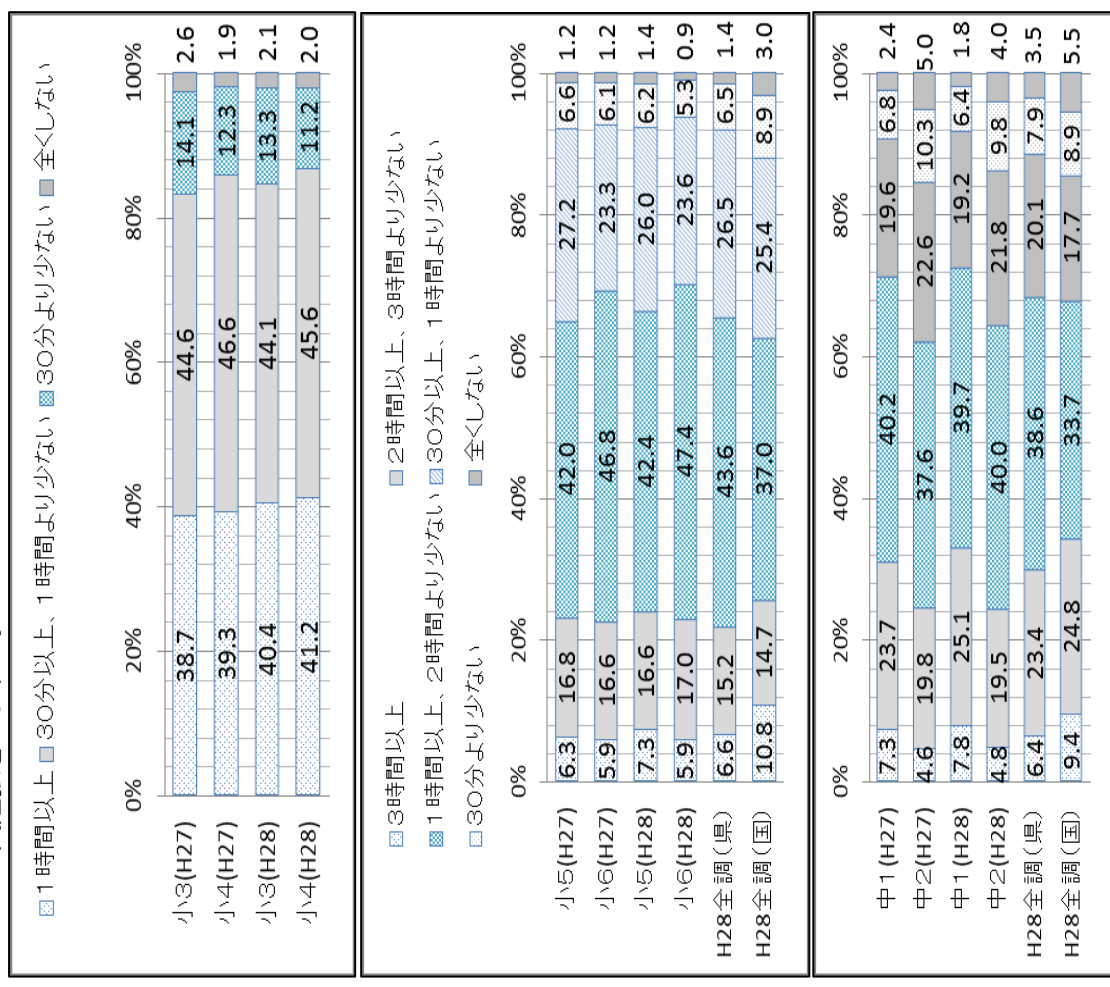
○ 授業の中で話し合う活動をよく行っていると思う児童の割合は、前年度に比べてやや増加しており、各学校の授業改善の成果がうかがえる。話し合い活動等を含め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善の一層の充実を図りたい。【質問⑥】

● 授業の目標の提示や授業の振り返りの実施に関する質問事項においては、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、前年度に比べてやや減少している。学習の見通しを立てたり振り返ったりする活動の確実な実施など、基本的な授業の在り方を再確認し、全校体制での授業改善の取組のさらなる充実を図りたい。【質問④⑤】

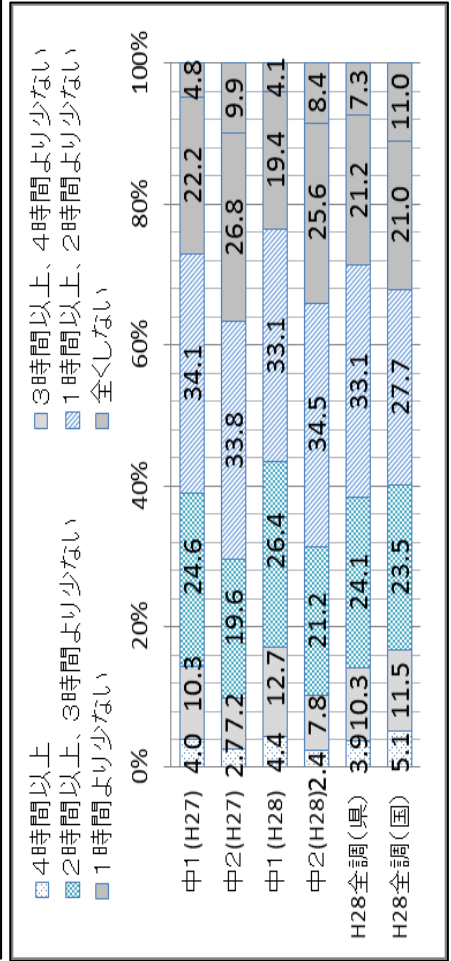
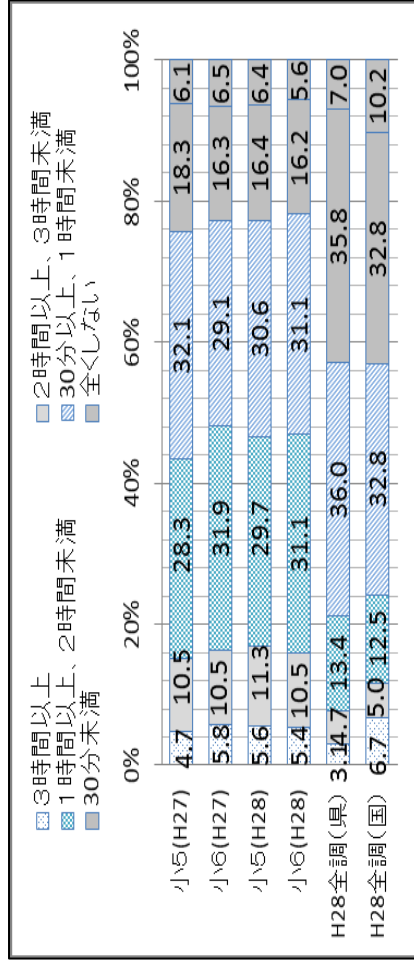
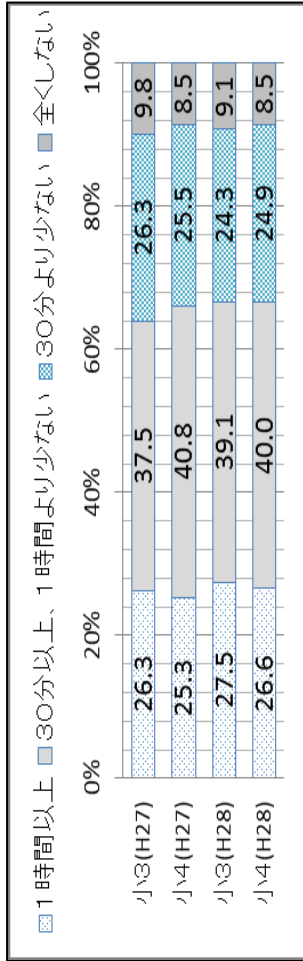
※ 本資料のグラフは、学年進行による推移や、平成27年度の調査結果と比較した状況が把握できるよう、平成27年度と平成28年度の結果をまとめて掲載しています。

※ 「全調」は、平成28年度全国学力・学習状況調査における山口県及び全国の結果を示しています。

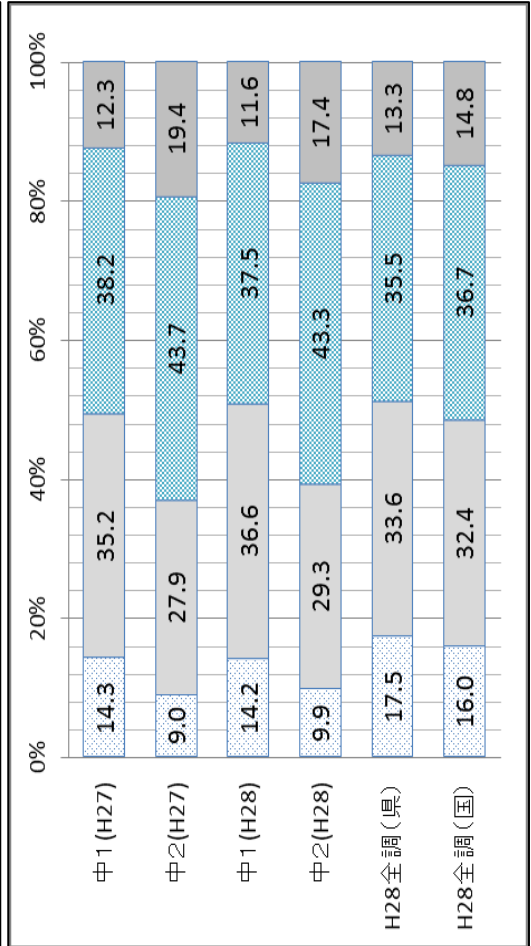
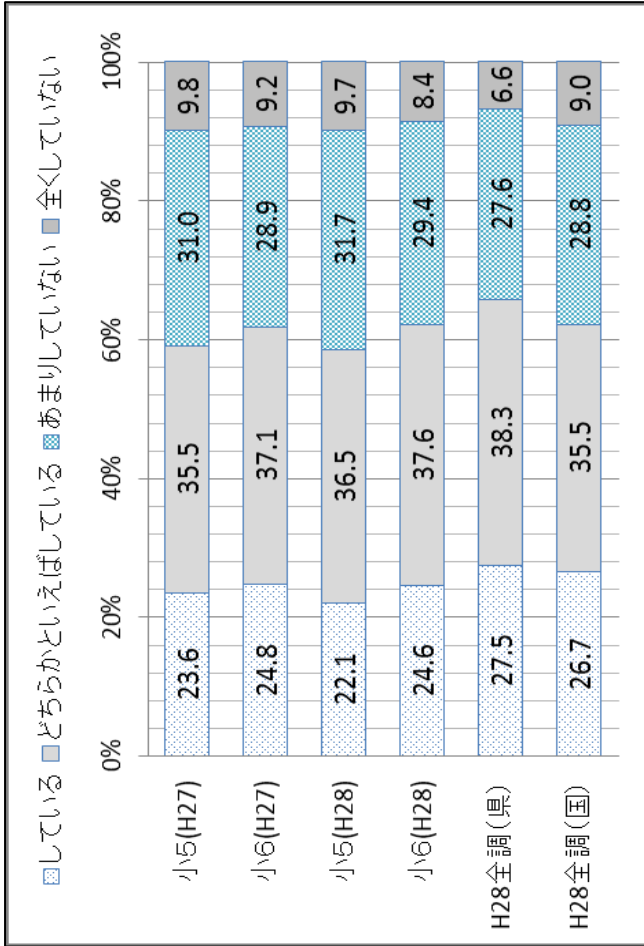
#### 【質問①】学校の授業時間以外に、ふだん（平日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。



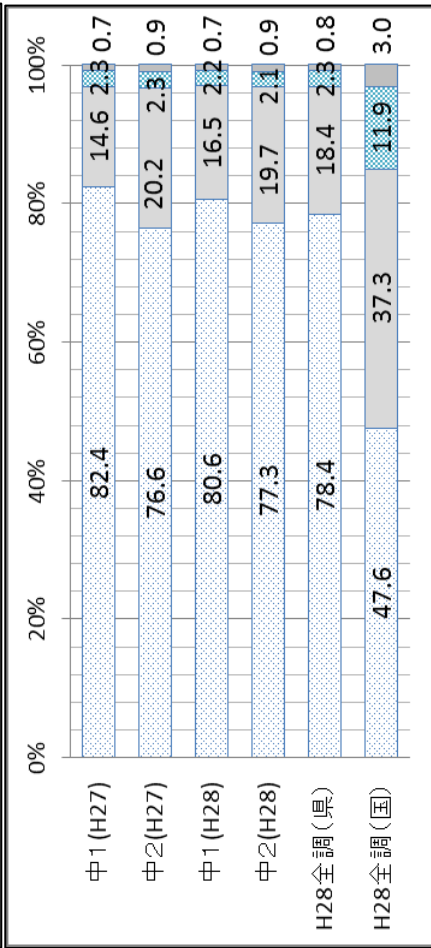
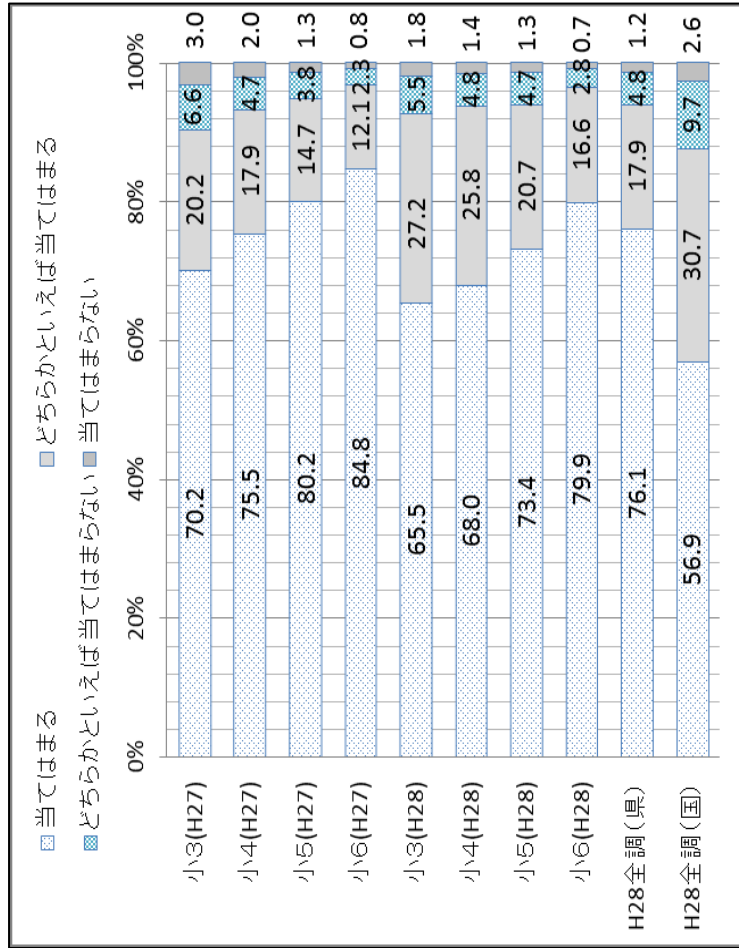
【質問②】 学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。



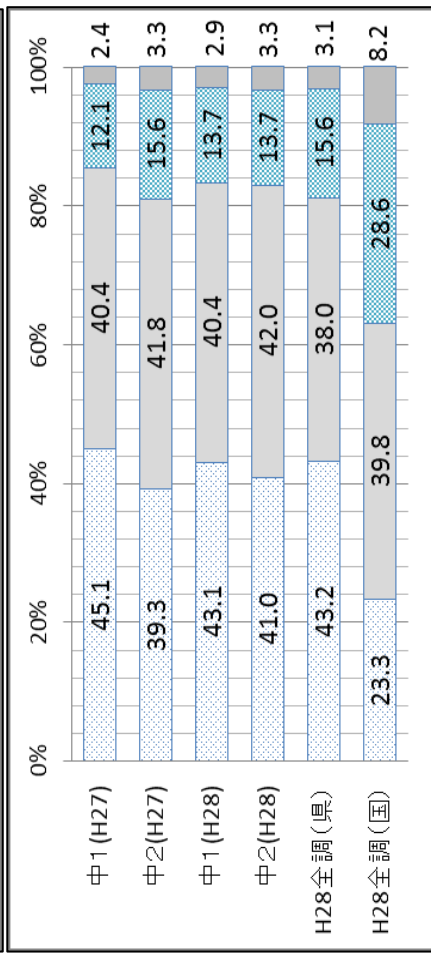
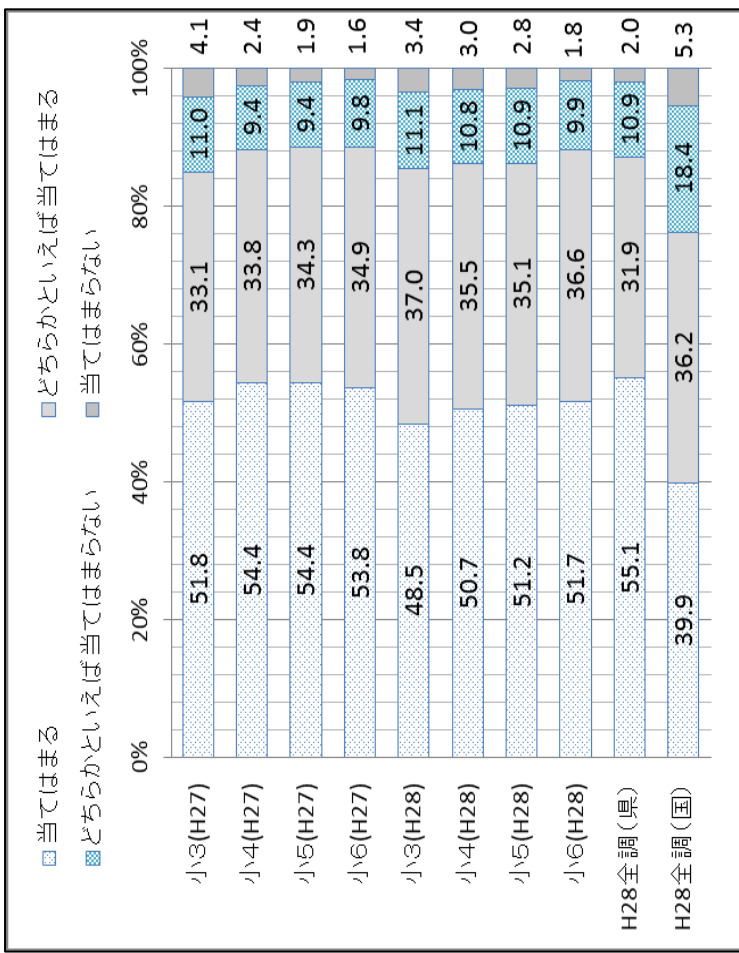
【質問③】 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。



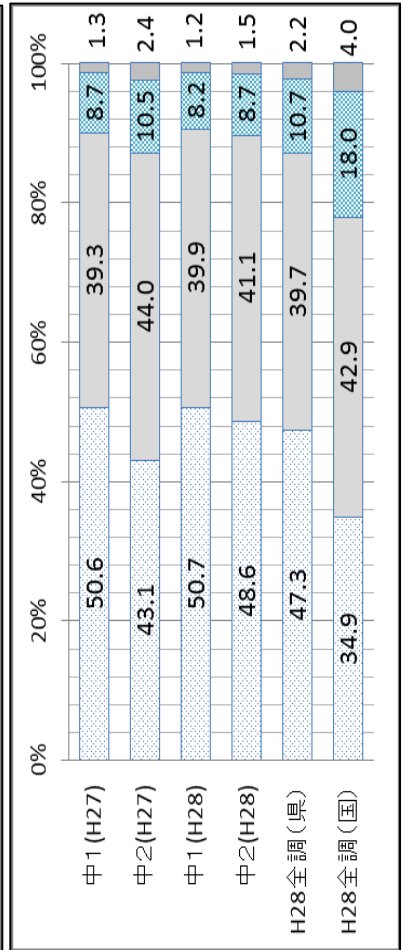
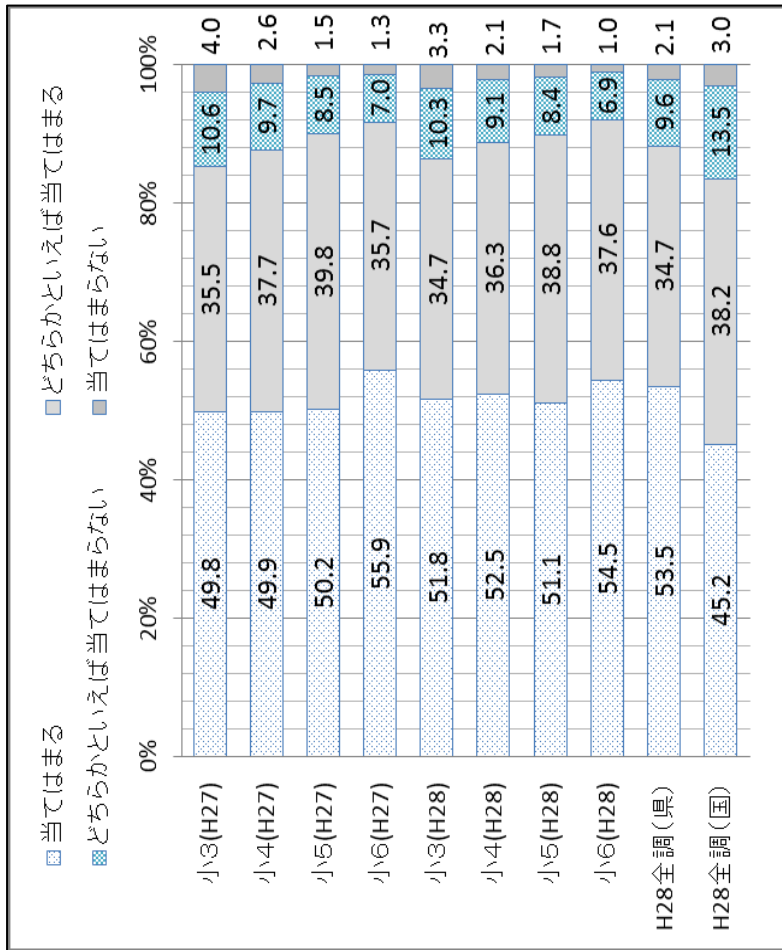
【質問④】授業の中で、授業の目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか。



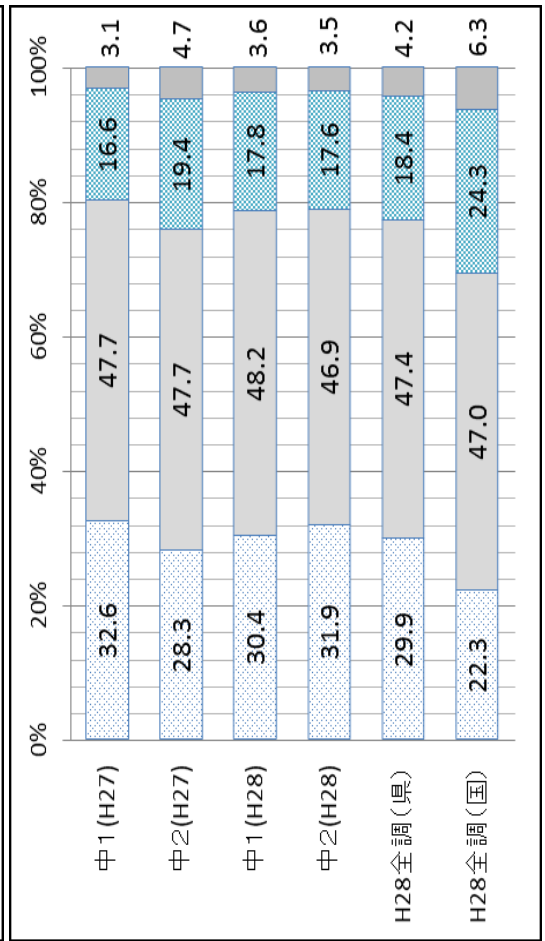
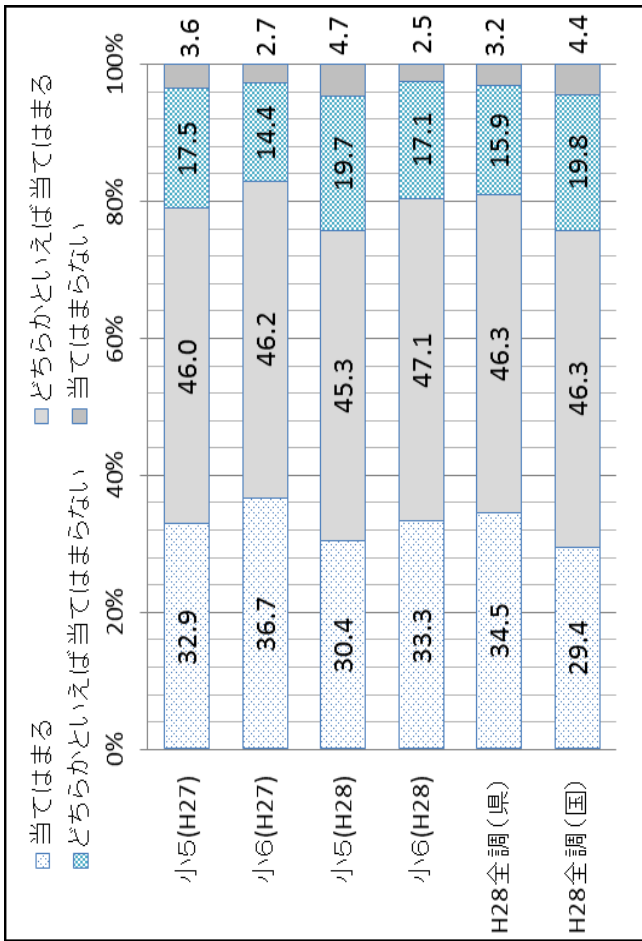
【質問⑤】授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。



【質問⑥】 普段の授業では、話し合う活動をよく行っていると思いますか。



【質問⑦】 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立ててその解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組みましたか。



## 報告事項 2

### 平成 29 年 3 月新規高等学校等卒業予定者の就職内定状況等について

#### 1 平成 29 年 3 月新規高等学校等卒業予定者の求人・求職・就職内定状況

平成 28 年 10 月末日現在 (山口労働局調べ)

項目 \ 性別		合 計	男 子	女 子	前年同期比
A	県内安定 求人数(人)	(4,767) 5,235			9.8%
B	県内就職 求職者数 (人)	(2,586) 2,541	(1,510) 1,475	(1,076) 1,066	-1.7%
	県外就職 求職者数	(631) 641	(496) 468	(135) 173	1.6%
	合 計	(3,217) 3,182	(2,006) 1,943	(1,211) 1,239	-1.1%
C=A/B 求人倍率(倍)		(1.48) 1.65			0.17ポイント
D	県内就職 就職内 定者数 (人)	(2,208) 2,182	(1,329) 1,311	(879) 871	-1.2%
	県外就職 就職内 定者数	(593) 608	(478) 446	(115) 162	2.5%
	合 計	(2,801) 2,790	(1,807) 1,757	(994) 1,033	-0.4%
E = D/B 就職 内定率 (%)	県内 就職	(85.4) 85.9	(88.0) 88.9	(81.7) 81.7	0.5ポイント
	県外 就職	(94.0) 94.9	(96.4) 95.3	(85.2) 93.6	0.9ポイント
	合 計	(87.1) 87.7	(90.1) 90.4	(82.1) 83.4	0.6ポイント
F 県内・県外 就職内定 比率 (%)	県内 就職	(78.8) 78.2	(73.5) 74.6	(88.4) 84.3	-0.6ポイント
	県外 就職	(21.2) 21.8	(26.5) 25.4	(11.6) 15.7	0.6ポイント

(注) 1. ( ) 内は昨年同期の数値である。

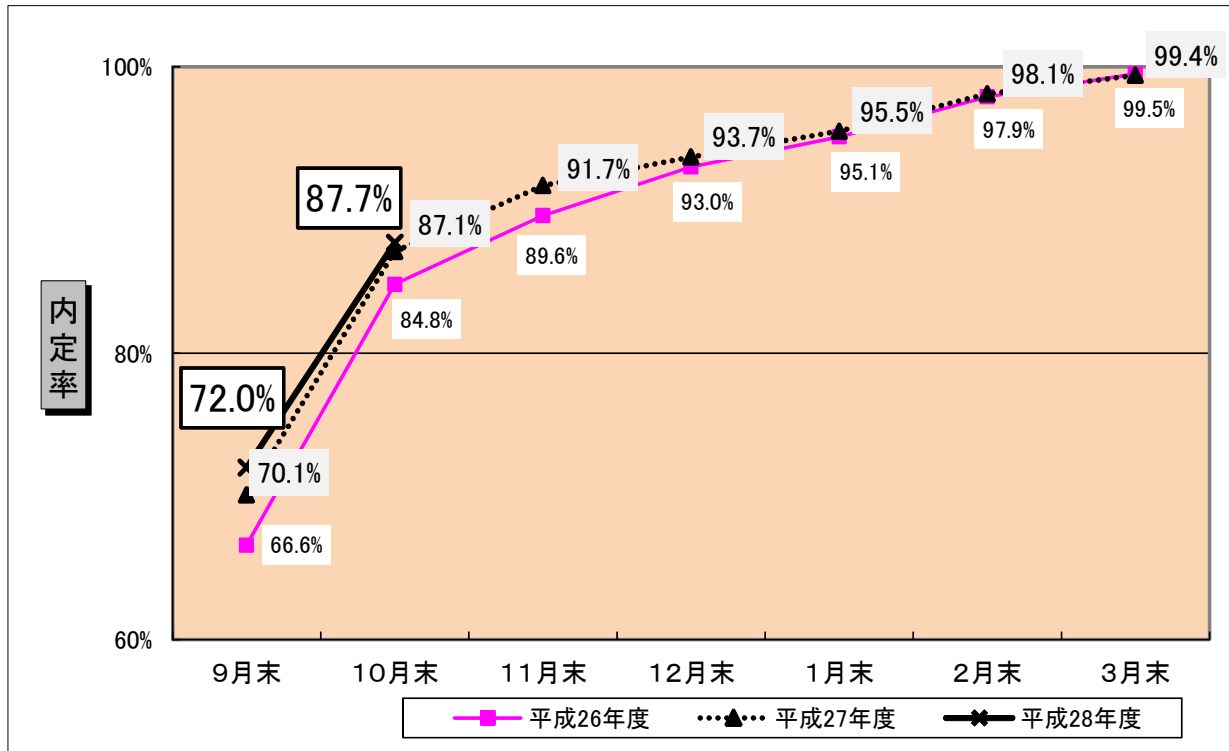
2. A欄：求人数は、山口県内の公共職業安定所で受理した求人数である。

3. B欄：求職者数は、学校又は公共職業安定所の紹介を希望する者の数である。

4. C欄：求人倍率は、Aの求人数/Bの求職者数(合計)である。

5. F欄：県内・県外就職比率は、平成 28 年 10 月末日現在における就職内定者の合計 2,790 人に対する県内・県外就職内定者(2,182人、608人)の比率である。

## 2 10月末の就職内定率の推移 [平成26年度～平成28年度]

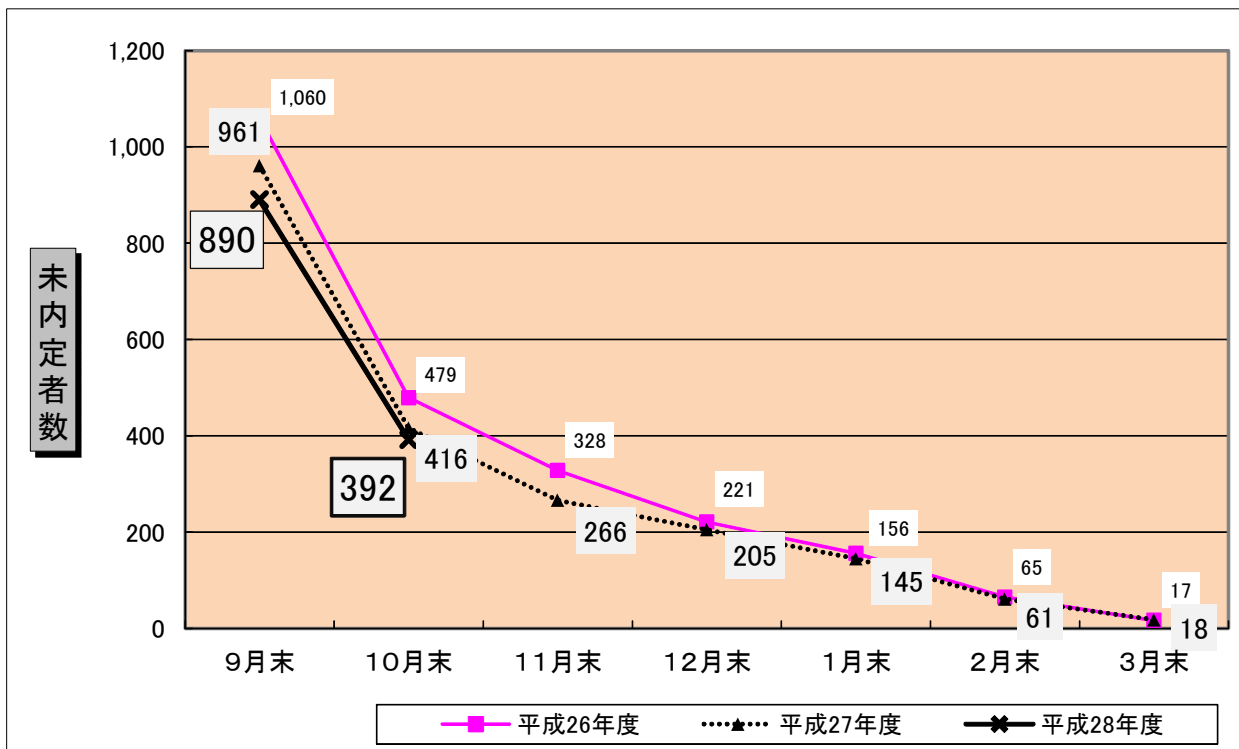


## 3 未内定の状況 (10月末)

### ■現状

- ・昨年度に比べ、県全体で24人減少 (416人→392人)  
 [内訳] 男子：13人減少 (199人→186人)  
 女子：11人減少 (217人→206人)

### ■未内定者の月別変化 (平成26年度～平成28年度)



## 4 平成29年3月新規高等学校等卒業予定者への支援

### (1) これまでの取組（11月まで）

#### ア **ガイダンスの充実**

- 生徒・保護者対象就職ガイダンス（4月から各校で随時実施）
- 高校へのキャリアカウンセラー等の派遣  
＜11月末現在の実績＞
  - ・山口県若者就職支援センターのキャリアカウンセラーの支援校数等  
支援校数：42校 訪問支援回数：81回  
延べ支援人数（生徒：2,794人 保護者：325人）

#### イ **求人開拓の強化**

- 求人確保促進月間における文書要請と企業訪問（5月）
  - ・文書による求人要請（知事、山口労働局、教育長の連名）  
従業員数が概ね30人以上の県内企業2,052社（訪問手交分含む）
  - ・訪問による求人要請  
企業109社、24関係団体
  - ・各校による企業訪問
- 商工会議所定例会での求人依頼（6月～9月）→宇部、新南陽など5商工会議所

#### ウ **マッチングの促進**

- 高等学校等進路指導連絡協議会の開催（4月）  
就職支援についての協議（教員、就職サポーター、関係機関等が参加）
- 県内就職促進協議会（5月～6月）7地区で8回開催  
企業と学校による情報交換他 参加企業数延べ671社
- 応募前職場見学（7月以降各校で随時実施）
- 地区別進路指導連絡協議会の開催（10月：県内7地区）
  - ・県教委と進路指導担当者（教員、サポーター等）が参加し、求人求職について情報共有
- 県内企業就職説明会の開催（10月：山口市）
  - ・就職未内定者を対象とした個別説明会の実施

### (2) 今後の取組

#### ア **ガイダンスの充実**

- 高校へのキャリアカウンセラー派遣（若者就職支援センター等）
- 未内定者及び保護者向けリーフレットの配布
- 就職サポーター、教員による未内定者及び保護者への面談

#### イ **求人開拓の強化**

- 生徒の希望に応じた求人要請（管理職、進路指導担当者、就職サポーター等）
- 地区内の未応募求人の共有化
- 未内定者情報に基づく学卒ジョブサポーターと連携した個別求人開拓
- 山口労働局作成の未充足求人リストの有効活用
- 一般求人の転用による求人開拓



## ウ マッチングの促進

- チーフ就職サポーターを中心とした広域での情報共有
- 未内定者求職情報一元化（地区内における未内定者情報の共有）
- ハローワークの学卒担当、学卒ジョブサポーターとの連携強化
- 一般求人から高卒求人への転用によるマッチング

## 5 県立特別支援学校における支援

### (1) 高等部卒業予定者の進路希望及び内定状況

平成28年10月末日現在（特別支援教育推進室調べ）（ ）内は昨年度10月末

	希望者数	内定者数	内 定 率	対前年10月末比
進 学	( 6 ) 1 2	( 3 ) 2	( 5 0 . 0 % ) 1 6 . 7 %	-33.3ポイント
就 職	( 8 0 ) 7 6	( 1 7 ) 1 7	( 2 1 . 3 % ) 2 2 . 4 %	1.1ポイント
福祉施設	( 1 6 2 ) 1 5 7	( 3 5 ) 3 6	( 2 1 . 6 % ) 2 2 . 9 %	1.3ポイント
在 宅	( 5 ) 9			

### (2) 平成29年3月高等部卒業予定者への今後の支援

#### ア 現場実習の継続実施による進路指導

- 就職に向けた企業ニーズや現場実習の評価を活用した指導内容等の改善
- 主体的な進路選択に向けて、生徒の希望や適性と企業ニーズとのマッチングを図ることを目的とした現場実習を適宜取り入れる等進路指導を積極的に実施
  - ・総合支援学校就職支援コーディネーターによる現場実習先の開拓情報を一元化して提供

#### イ 関係機関との連携強化による就職支援

- ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、障害者職業センター等との連携強化
  - ・ジョブサポーター、ジョブコーチ等の活用
  - ・個別の進路相談やケース会議の早期実施による、情報の共有化の促進と連携協働した就職支援
  - ・障害者職業センターや障害者就業・生活支援センターと現場実習先への合同の巡回支援などによる、在学中から職場定着に向けた移行支援体制の強化
- 労働政策課との連携強化
  - ・障害者雇用促進事業に係る新規学卒障害者職業訓練の活用
- 未充足求人の活用による、生徒の希望や適性と企業ニーズとのマッチングを促進

# 報告事項 3

## 平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

学校安全・体育課

### 1 調査名

平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

### 2 調査の概要

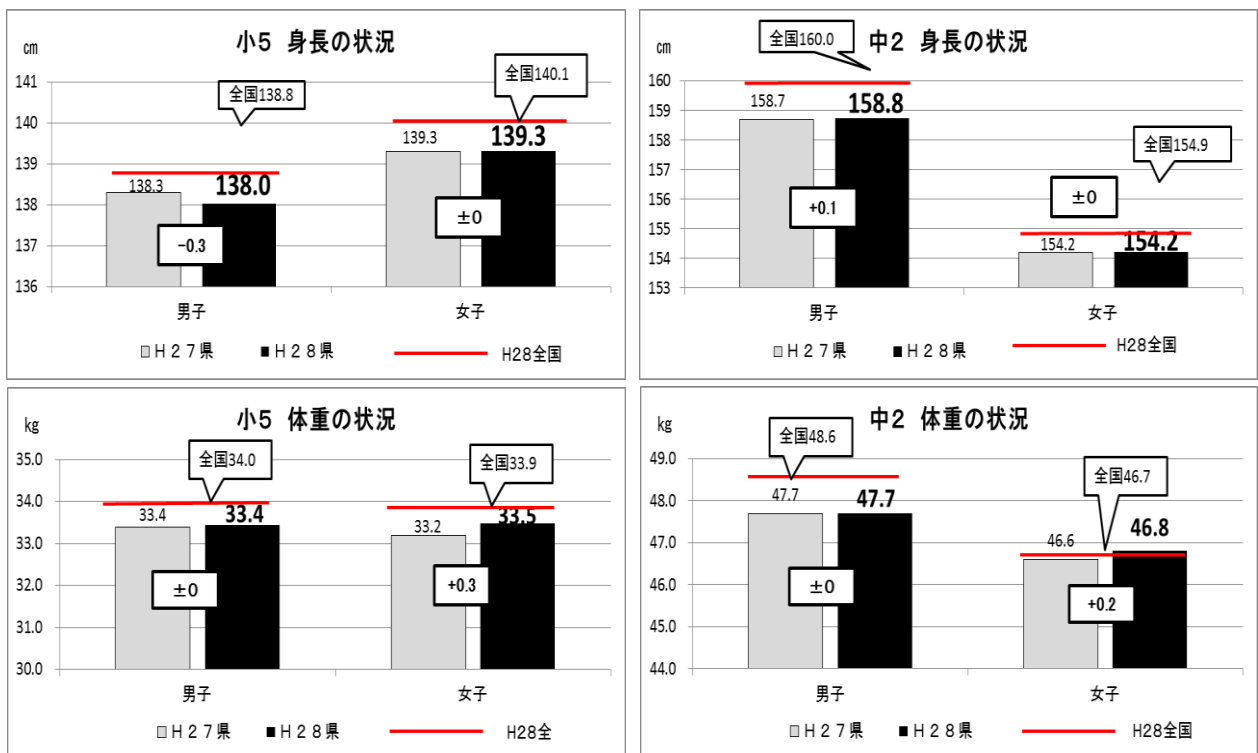
- (1) 調査主体 スポーツ庁
- (2) 調査期間 平成28年4月～7月末（学校ごとに期日を設定）
- (3) 調査内容

調査対象	・小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年 ・中学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年
調査方式	・対象学年の全児童・生徒を対象に全国悉皆調査（H27年度も悉皆調査）
調査事項	・実技 小学校8種目（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ） 中学校8種目（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走（男子1500m、女子1000m）、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ） ※中学校は持久走か20mシャトルランのどちらかを選択して実施 ・質問紙調査 児童・生徒質問紙（運動習慣、生活習慣） 学校質問紙（子供の体力向上に係る学校の取組等）

### 3 調査学校数及び児童・生徒数

校種	区分	調査学校数	調査児童・生徒数（人）		
			男子	女子	合計
小学校	山口県	294	5,641	5,435	11,076
	全国	20,272	528,727	507,079	1,035,806
中学校	山口県	159	5,613	5,466	11,079
	全国	10,593	533,395	510,172	1,043,567

### 4 児童・生徒の体格の状況

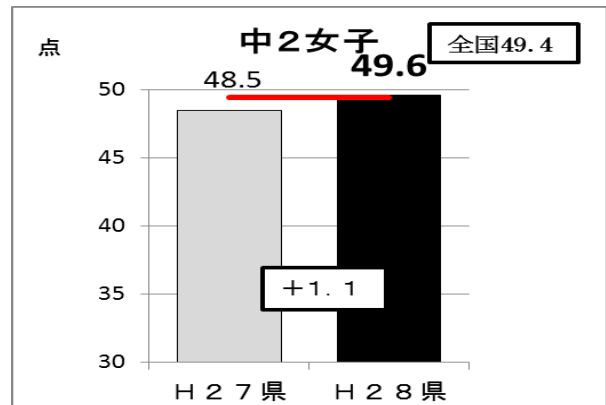
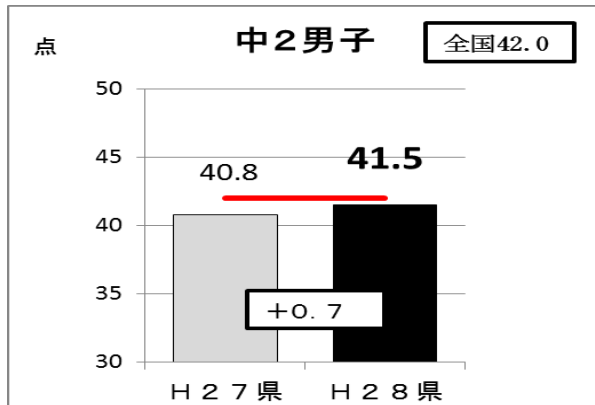
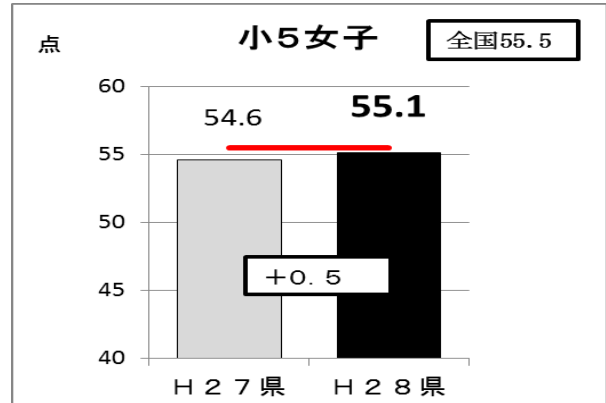
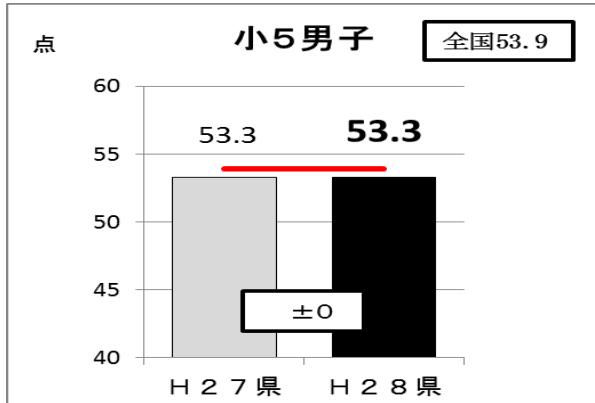


## 5 児童・生徒の体力の状況

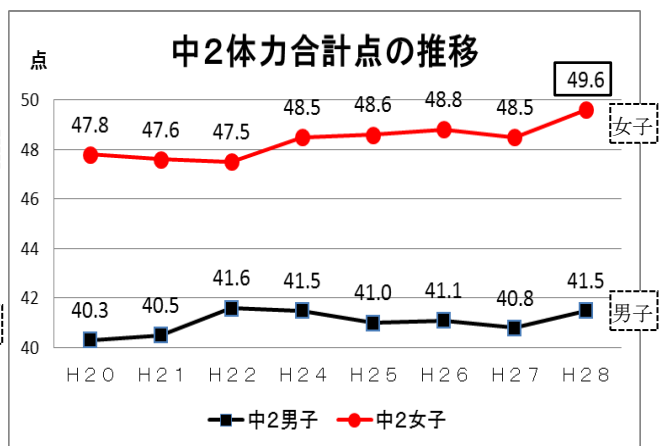
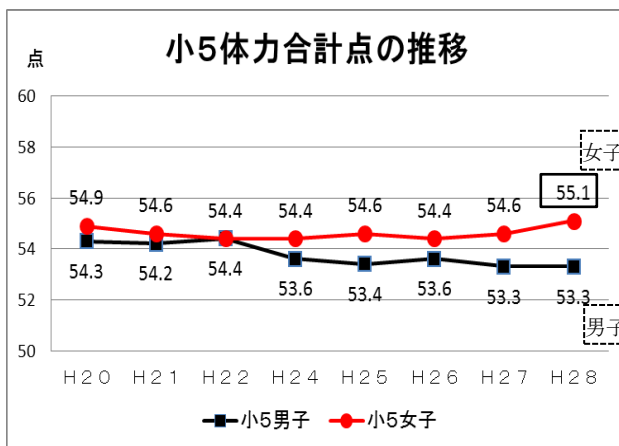
### (1) 体力合計点

体力の総合的な指標である「体力合計点」は、全国平均と比較して、中2女子が上回った。本県の昨年度の記録と比較すると、小5女子、中2男子、中2女子が上回っている。また、小5女子、中2女子は、平成20年の全国調査開始以降、「体力合計点」が県最高値となった。

#### 【昨年度及び全国平均との比較】



#### 【体力合計点の推移】



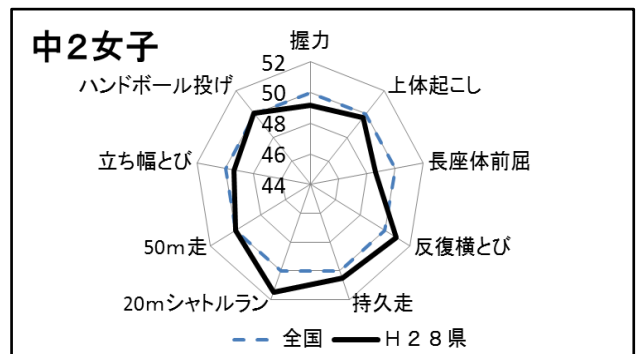
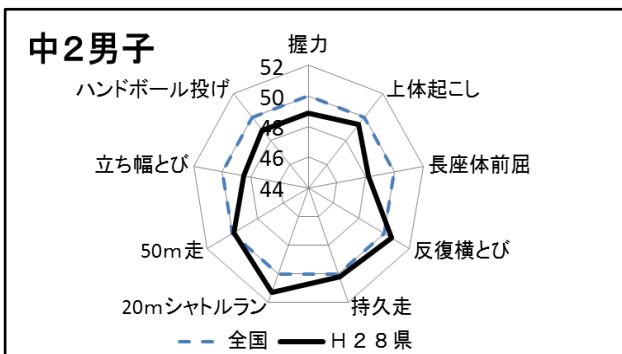
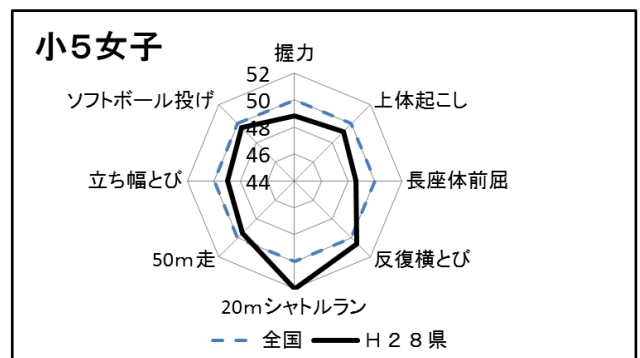
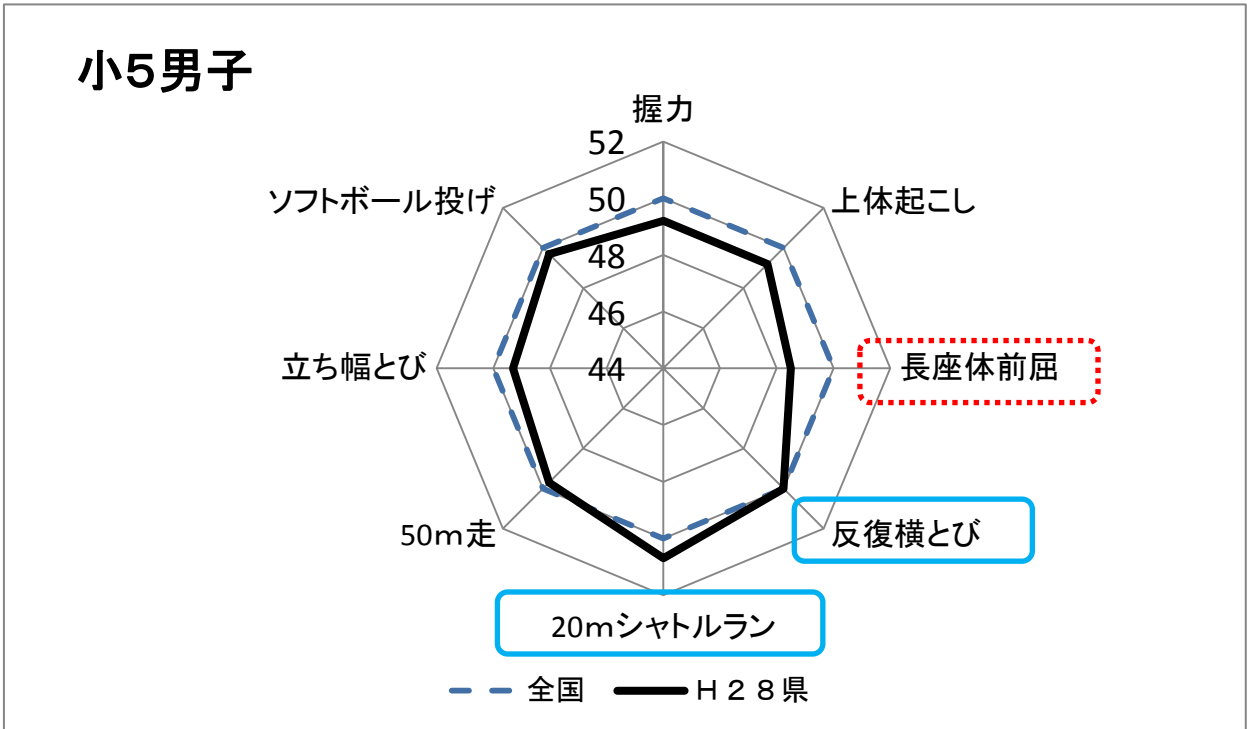
※ H20・21・25・26・27年度は「悉皆調査」、H22・24年度は「抽出調査」、H23年度は震災のため調査中止

(2) 体力調査各種目の状況

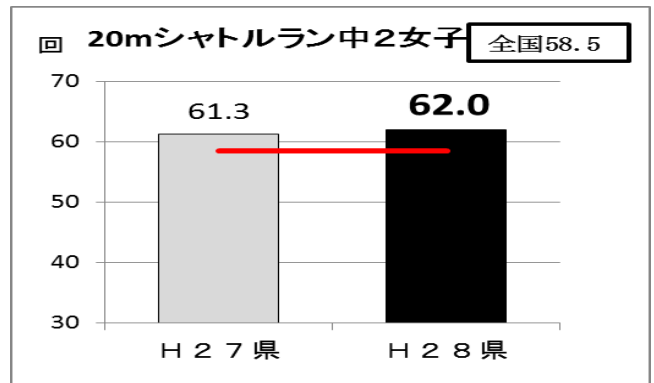
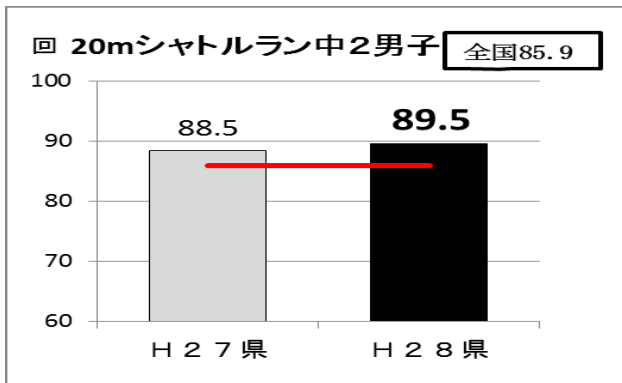
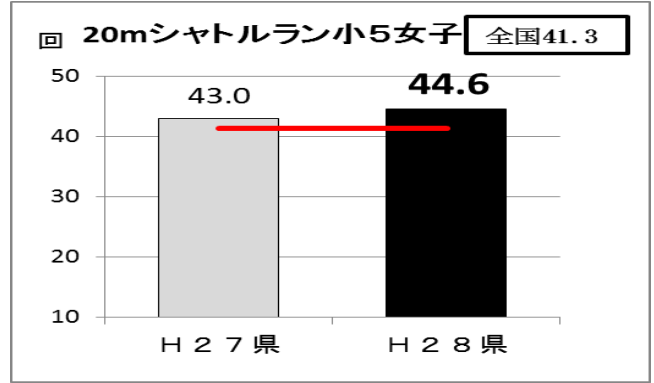
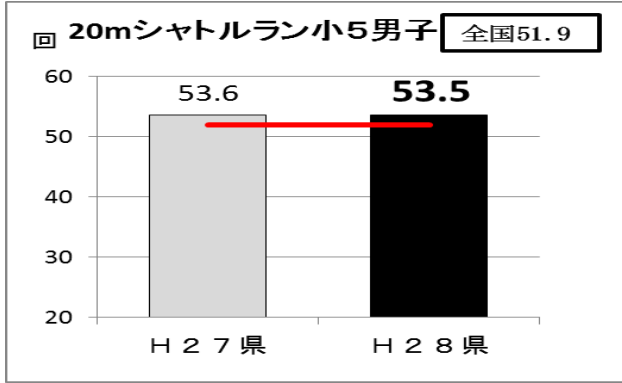
全国平均と比較して、反復横とび（敏捷性）、20mシャトルラン（持久力）は、全ての調査対象で同値または上回った。特に反復横とびは、小5女子、中2男子、中2女子が本県のこれまでの最高値となった。これまで同様、敏捷性や持久力に優れている。

これまでの課題であった長座体前屈（柔軟性）については、本県の昨年度の記録と比較して、全ての調査対象で上回り、小5男子、小5女子、中2女子は本県のこれまでの最高値となったが、全国平均と比較して全ての調査対象で下回っており、引き続き課題である。

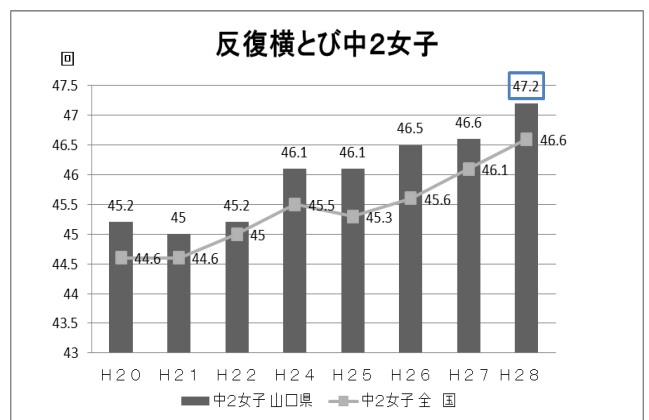
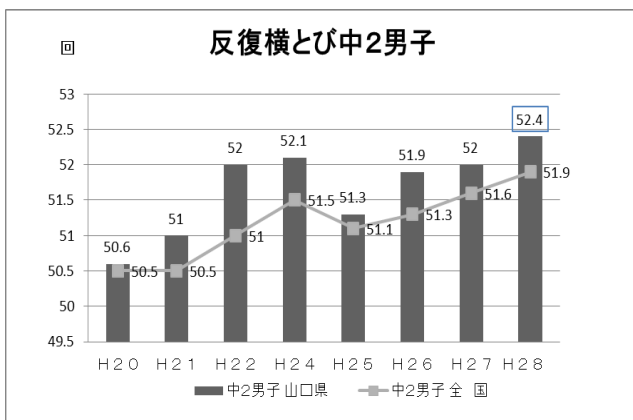
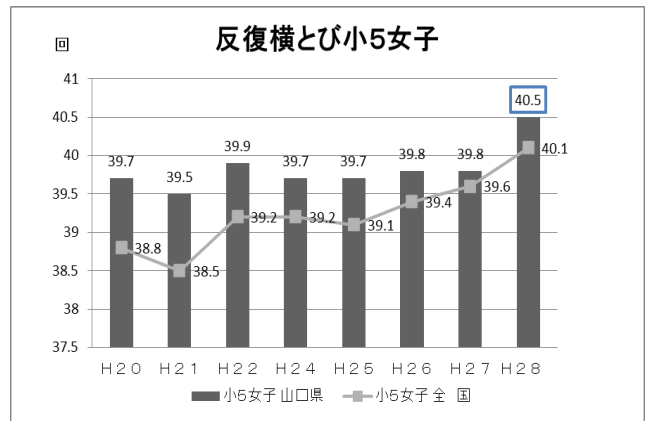
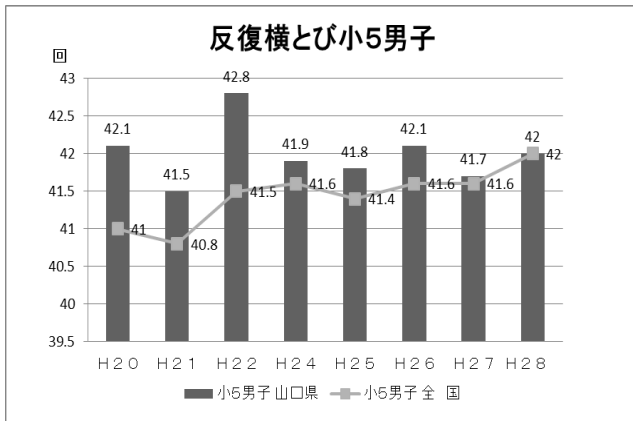
【全国平均を50とした調査項目別の比較】



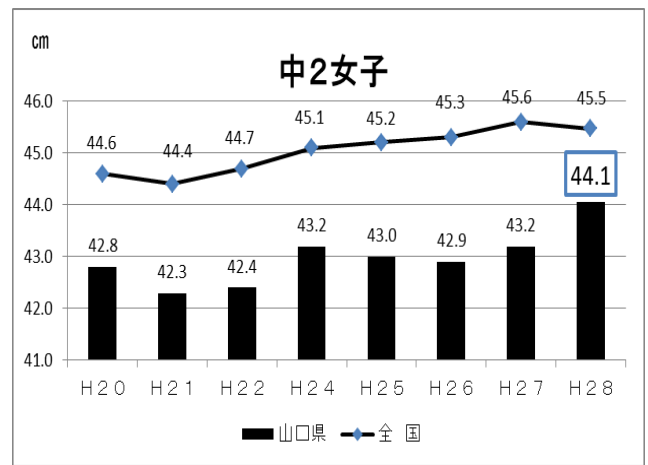
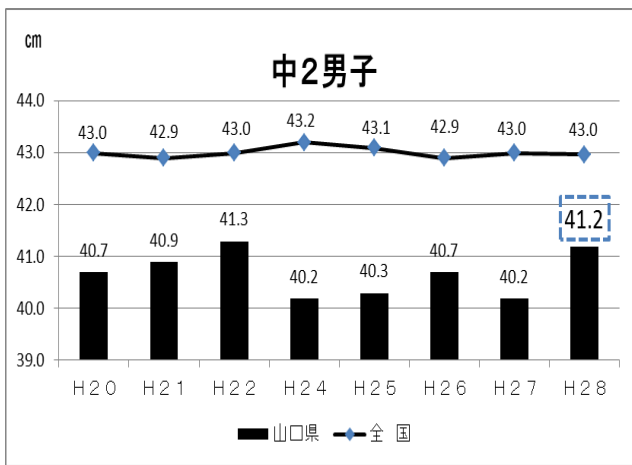
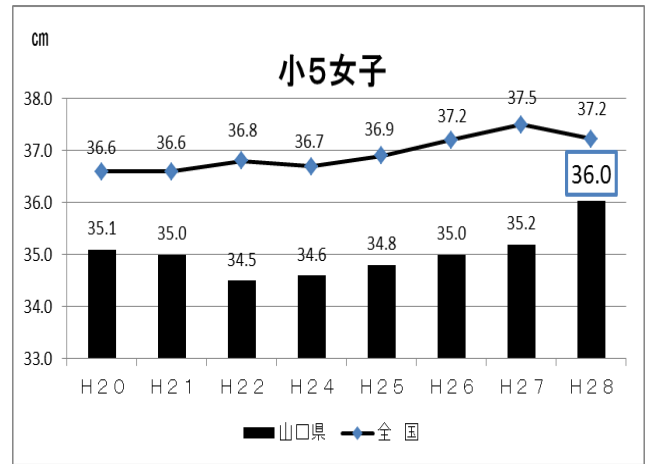
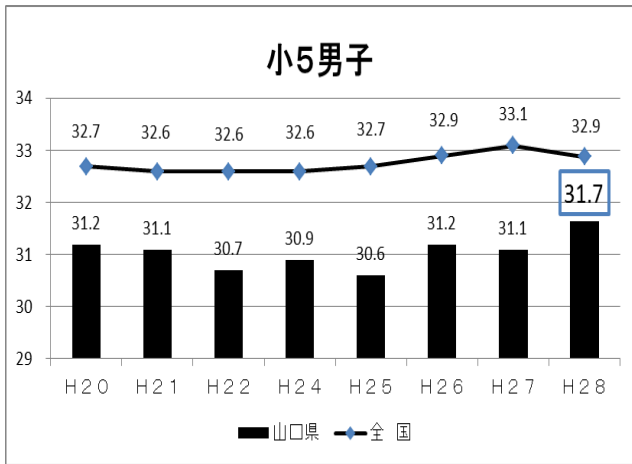
【昨年度及び全国平均との比較】



【反復横とびの推移】



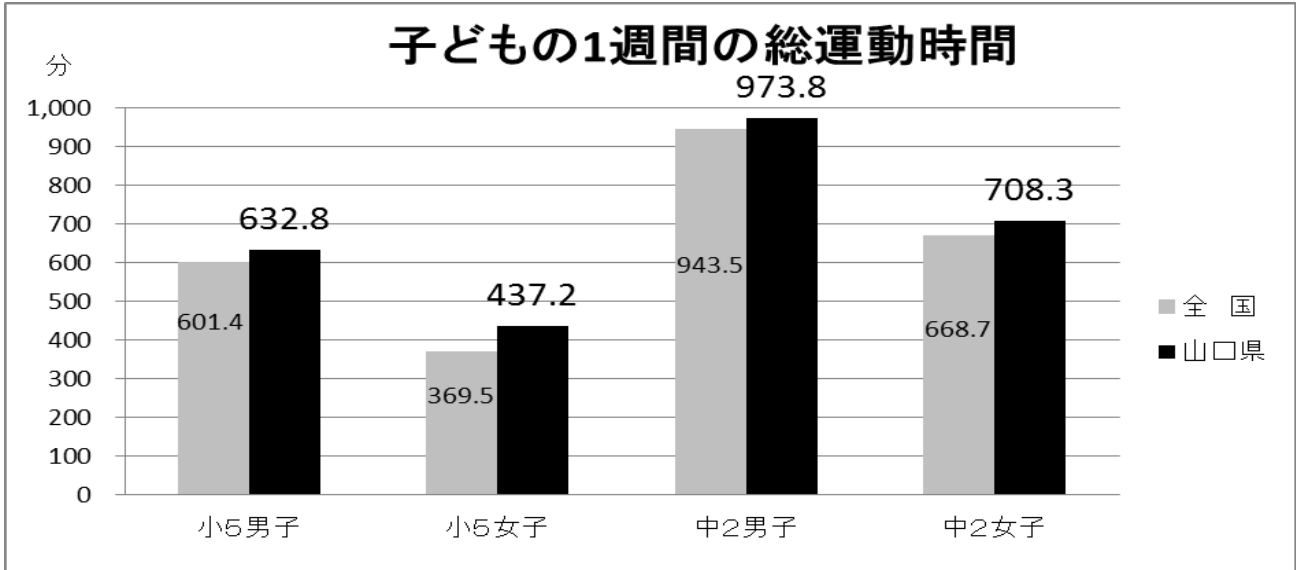
【長座体前屈の推移】



## 6 運動習慣等調査の状況

### 【運動やスポーツの実施時間】（体育の時間以外）

- ・全国平均と比較すると、1週間の総運動時間は全ての調査対象で上回っている。
- ・全国平均と比較すると、総運動時間が60分未満の生徒の割合は、男女ともに低かった。小学校も同様の傾向である。



### 【1週間の総運動時間別の児童・生徒の割合】（体育の時間以外）

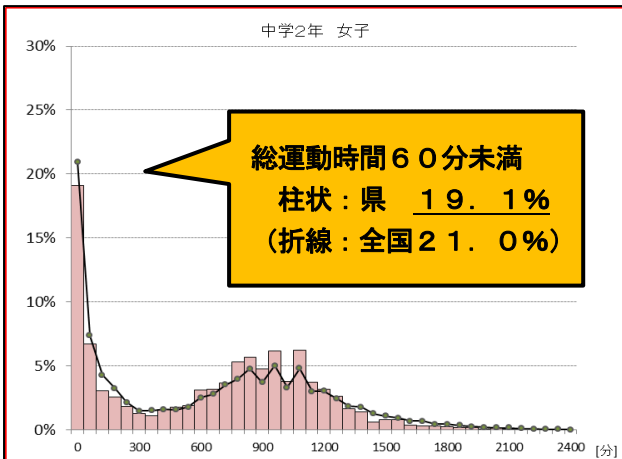
#### H27年度



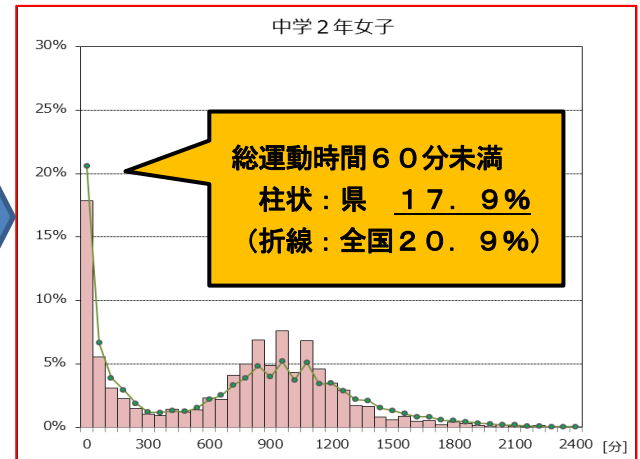
#### H28年度



##### 中学2年 女子



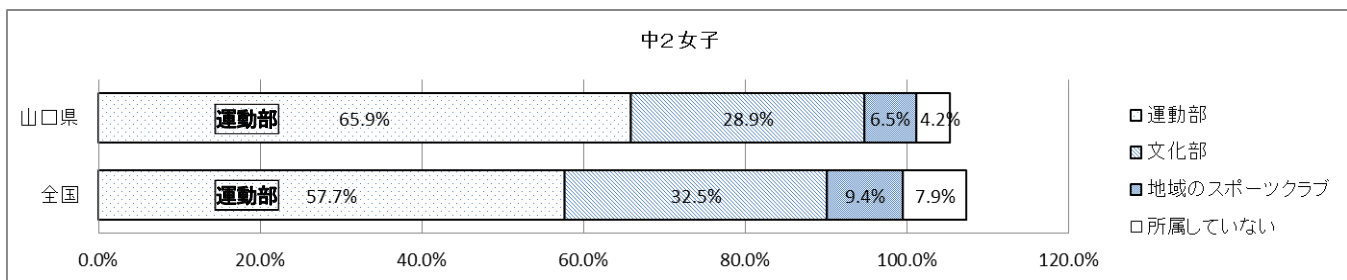
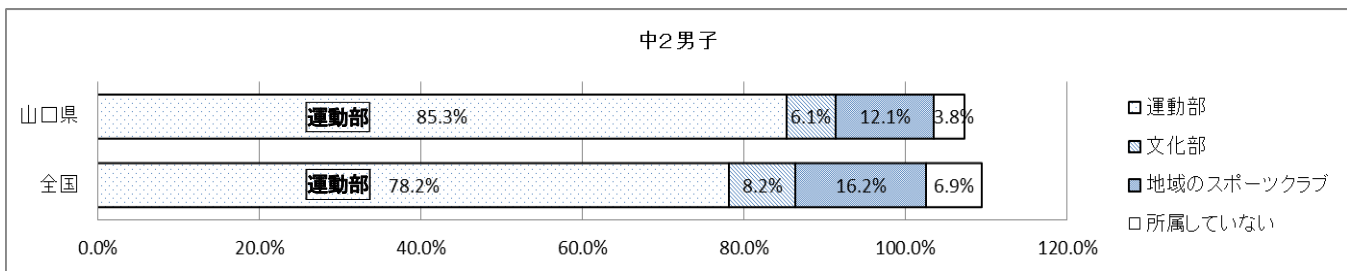
##### 中学2年女子



7 運動部活動に関する調査結果（生徒質問紙調査・学校質問紙調査）

【運動部活動に所属している生徒の割合】（生徒質問紙）

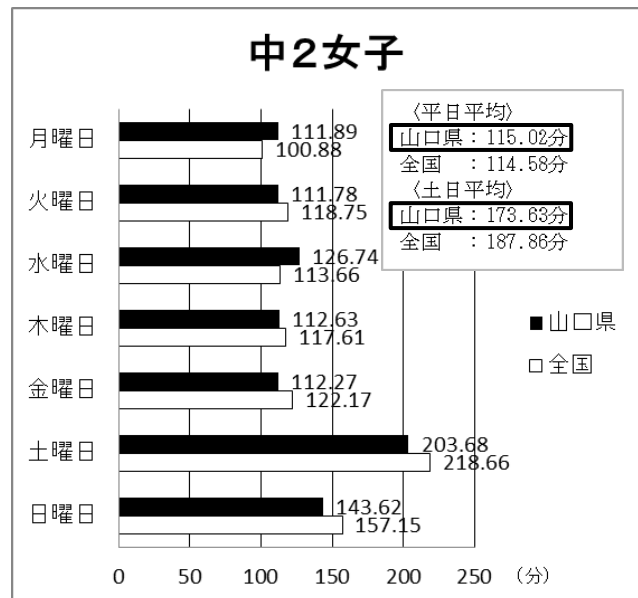
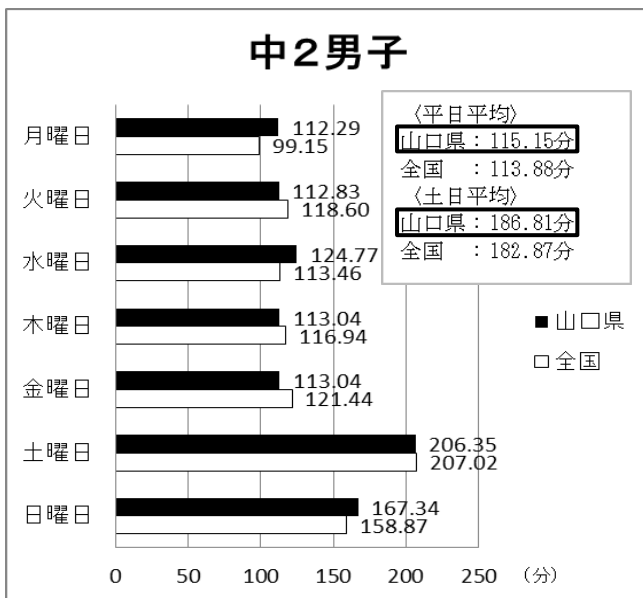
・運動部活動に所属している割合は、男女ともに、全国と比較して高い。



※全体が100%を超えるのは、複数にわたり所属している生徒もいるため

【運動部活動における運動実施時間】（生徒質問紙）

・運動部活動における運動実施時間は、中2男子においては、平日平均が115分、土日平均が187分、女子においては、平日平均が115分、土日平均が174分であった。



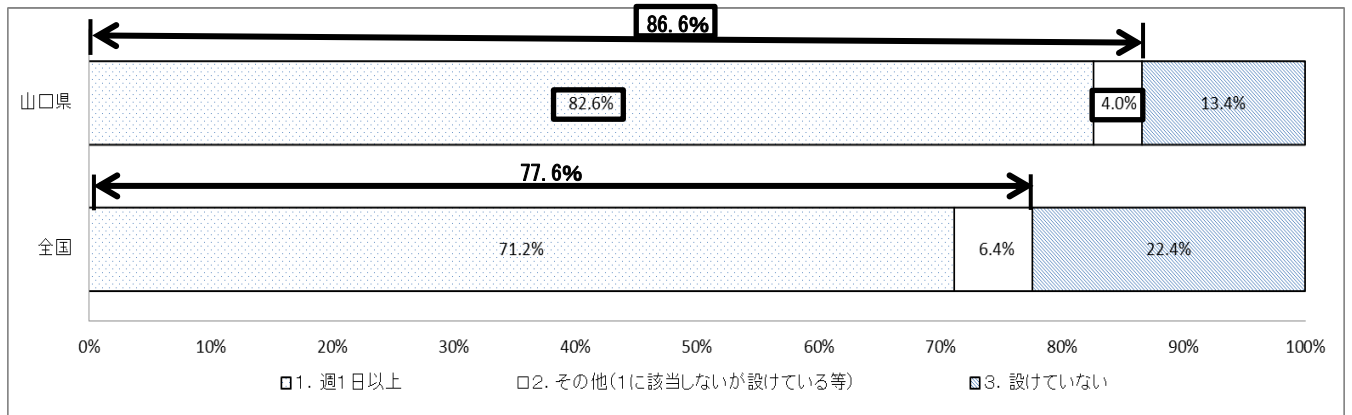
※「平日平均」及び「土日平均」の数値は、運動部活動における運動実施時間を分析するために算出した数値である。



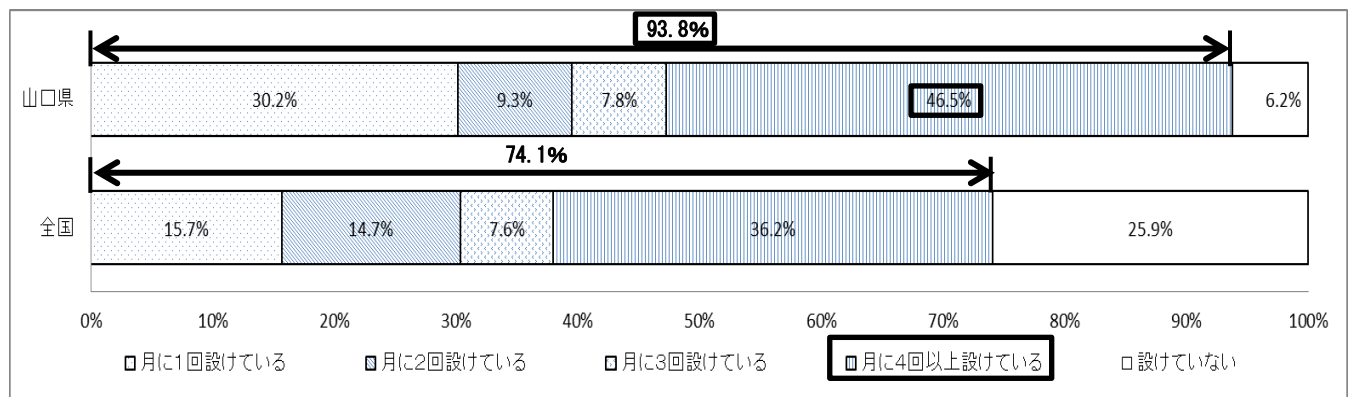
【部活動における休養日の設定】（学校質問紙）

- ・部活動において休養日を設けている学校の割合は、全国と比較すると高い。
- ・部活動において休養日を設けている学校のうち、土日に休養日を設けている学校の割合は93.8%であり、全国と比較すると高い。

**A** 学校の決まりとしての部活動における休養日の設定



**B** 土日の休養日の設定 ※Aにおいて「設けていない」と回答した学校を除く



## 8 今年度の成果と課題及び来年度の取組

### (成果)

今年度から、県内公立全小・中学校の共通課題として取り組んだ、柔軟性向上を中心とした体力向上の取組により、長座体前屈(柔軟性)においては、本県の昨年度の記録と比較して、全ての調査対象で上回り、小5男子、小5女子、中2女子は本県のこれまでの最高値となった。

また、50m走、反復横跳びも本県の昨年度の記録と比較して、全ての調査対象で同値または上回り、特に反復横跳びは、小5女子、中2男子、中2女子が本県のこれまでの最高値となった。

「体力合計点」については、小5女子、中2女子は県のこれまでの最高値となった。

### (課題)

「体力合計点」については、小5男子、小5女子、中2男子については、全国平均には届いていない。

本県の課題である長座体前屈(柔軟性)においても、昨年度の県の記録を全ての調査対象で上回ったものの、全国平均を全ての調査対象で下回っている。

### (来年度の取組)

○各学校における柔軟性向上運動メニューの実施率100%を目指す。

○小学校における、参加型による体力向上の取組を実施。

### (具体的内容)

○柔軟性向上運動メニューの取組

・改良版運動メニュー及び取組例の配付

・体育科、保健体育科授業の準備運動として全ての小・中学校で実践

・小中連携による、中学校保健体育科体育教員と体育授業マイスターによる出前授業(運動メニューの実践)

○各校における「新!体力向上プログラム」の作成・見直し

・「柔軟性向上」の取組と、各校の得意な種目をさらに伸ばす、特色ある1校1取組の促進

○体育科・保健体育科授業の充実

・授業改善

・体づくり運動の充実

・柔軟性向上運動メニューの定着

・小教研・小体連との連携(体力向上を視野に入れた授業づくりの研究)

・小中連携の促進

○運動習慣の継続に向け、学校・家庭・地域が一体となった取組の推進

・スポーツ庁事業「遊び・運動大好き!やまぐちっ子育成事業」の推進

・地域の人材を活用した休み時間の運動や体育活動の充実

・参加型による体力向上の取組の実施により、バランスのとれた体力の向上を図る。(なわとび、ボール投げリレー等を予定)

## 児童・生徒の体格の状況

は全国平均値以上    はH27を上回る

校種	性別	区分	身長(cm)	体重(kg)	正常の範囲の児童生徒の割合
小学5年生	男	H27山口県	138.3	33.4	89.1%
		H28山口県	138.0	33.4	88.1%
		<b>H28全国</b>	<b>138.8</b>	<b>34.0</b>	<b>87.2%</b>
	女	H27山口県	139.3	33.2	91.5%
		H28山口県	139.3	33.5	90.3%
		<b>H28全国</b>	<b>140.1</b>	<b>33.9</b>	<b>89.5%</b>
中学2年生	男	H27山口県	158.7	47.7	91.2%
		H28山口県	158.8	47.7	91.5%
		<b>H28全国</b>	<b>160.0</b>	<b>48.6</b>	<b>89.7%</b>
	女	H27山口県	154.2	46.6	90.0%
		H28山口県	154.2	46.8	90.0%
		<b>H28全国</b>	<b>154.9</b>	<b>46.7</b>	<b>89.5%</b>

※表のグレーの部分は全国平均値以上、太囲みは平成27年度より向上を示しており、以下の表も全て同じです。

### 参考

#### 〈肥満傾向児・痩身傾向児の出現率の算出・判定方法〉

「児童生徒の健康診断マニュアル（改訂版）」より  
平成18年3月31日発行（財）日本学校保健会

- ・標準体重(kg) = a × 身長(cm) - b
- ・肥満度(%) = [自分の体重(kg) - 標準体重(kg)] ÷ 標準体重(kg) × 100

#### 標準体重を求める係数

年齢	男子		女子	
	a	b	a	b
6(小1)	0.461	32.382	0.458	32.079
7(小2)	0.513	38.878	0.508	38.367
8(小3)	0.592	48.804	0.561	45.006
9(小4)	0.687	61.390	0.652	56.992
10(小5)	0.752	70.461	0.730	68.091
11(小6)	0.782	75.106	0.803	78.846
12(中1)	0.783	75.642	0.796	76.934
13(中2)	0.815	81.348	0.655	54.234
14(中3)	0.832	83.695	0.594	43.264

#### 判定基準

肥満度	判定
50%以上	高度肥満
30 ~ 49.9%	中等度肥満
20 ~ 29.9%	軽度肥満
-19.9 ~ 19.9%	正常
-29.9 ~ -20%	やせ
-30%以下	高度やせ

児童・生徒の体力調査各種目の状況

■ は全国平均値以上 □ はH27を上回る

校種	性別	区分	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20mシャトルラン	持久走	50m走	立ち幅跳び	ハンドボール投げ	体力合計点
			(kg)	(回)	(cm)	(回)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
小学5年生	男	H27山口県	16.2	19.3	31.1	41.7	53.6	—	9.43	150.7	22.7	53.3
		H28山口県	<b>16.2</b>	<b>19.2</b>	<b>31.7</b>	<b>42.0</b>	<b>53.5</b>	—	<b>9.41</b>	<b>149.9</b>	<b>22.2</b>	<b>53.3</b>
		H28全国	<b>16.5</b>	<b>19.7</b>	<b>32.9</b>	<b>42.0</b>	<b>51.9</b>	—	<b>9.38</b>	<b>151.4</b>	<b>22.4</b>	<b>53.9</b>
	女	H27山口県	15.8	18.3	35.2	39.8	43.0	—	9.68	143.6	13.6	54.6
		H28山口県	<b>15.7</b>	<b>18.2</b>	<b>36.0</b>	<b>40.5</b>	<b>44.6</b>	—	<b>9.65</b>	<b>143.3</b>	<b>13.7</b>	<b>55.1</b>
		H28全国	<b>16.1</b>	<b>18.6</b>	<b>37.2</b>	<b>40.1</b>	<b>41.3</b>	—	<b>9.61</b>	<b>145.3</b>	<b>13.9</b>	<b>55.5</b>
中学2年生	男	H27山口県	28.1	26.9	40.2	52.0	88.5	388.7	8.08	189.3	19.8	40.8
		H28山口県	<b>28.1</b>	<b>27.1</b>	<b>41.2</b>	<b>52.4</b>	<b>89.5</b>	<b>390.3</b>	<b>8.03</b>	<b>190.6</b>	<b>20.0</b>	<b>41.5</b>
		H28全国	<b>28.9</b>	<b>27.4</b>	<b>43.0</b>	<b>51.9</b>	<b>85.9</b>	<b>392.6</b>	<b>8.03</b>	<b>194.7</b>	<b>20.5</b>	<b>42.0</b>
	女	H27山口県	23.3	23.0	43.2	46.6	61.3	289.6	8.90	164.3	12.7	48.5
		H28山口県	<b>23.4</b>	<b>23.3</b>	<b>44.1</b>	<b>47.2</b>	<b>62.0</b>	<b>286.3</b>	<b>8.83</b>	<b>166.8</b>	<b>12.9</b>	<b>49.6</b>
		H28全国	<b>23.7</b>	<b>23.4</b>	<b>45.5</b>	<b>46.6</b>	<b>58.5</b>	<b>289.3</b>	<b>8.83</b>	<b>168.2</b>	<b>12.8</b>	<b>49.4</b>
体力要素	筋力	○	○					○	○	○		
	柔軟性			○								
	敏捷性				○			○				
	持久力		○			○	○					
	調整力				○				○	○		

※持久走は、中学生のみの項目 男子1500m 女子1000m  
 ※中学生は「20mシャトルラン」か「持久走」のどちらかを選択して実施  
 ※「ソフトボール投げ」は小学生、「ハンドボール投げ」は中学生



## 意見交換

番号	件 名	主 管 課
1	教員の資質能力の向上のための「資質の向上に関する『指標』の策定」について ※別冊資料	教 職 員 課